



絵本の読み聞かせ

先日CIR(国際交流員)のエラと、絵本の読み聞かせの話をしました。エラのお母さんは教育熱心で、特に絵本の読み聞かせには力を入れられたそうです。また、お父さんも毎日読み聞かせをしてくれたそうです。

7月まで勤務していたALT(外国語指導助手)のルーシーも、中学生までお父さんに「ハリーポッター」の話を読み聞かせしてもらい、次のストーリーを想像してワクワクしたそうです。

エラの話を知ると、イギリスでは「読み聞かせをしてあげる」ではなく、「読み聞かせが子育てには必要なもの」として生活の一部になっていると感じました。それだけ子ども達の成長、学びに重要なのです。

乳幼児期の読み聞かせの重要性は、保護者の皆さんもご存じて、子ども達のために取り組んでおられると思います。ぜひ、自分のやり方、時間、など工夫しながら成長、学びに必要な「読み聞かせ」を続けていってください。必ず子ども達の成長に大きく影響していきます。

園長 長谷部 弥生

「見守ること」～21世紀型保育のススメ 藤森平司 著～

～新宿せいがこども園の藤森園長の著書からどのように見守っていけばいいかを3つ紹介します～

1. 子どもがやろうとするとときに、それを自分の言葉で言うことを待ってあげ、自分からやりはじめられるような環境を整えてあげます。
2. 子どもが何か問題を抱えているときに、それを除いてあげようとするのではなく、自分でそれを解決できるように援助してあげます。
3. 子どもが何を考えているかを、いつも先回りして考えるのではなく、子どもの考えを聞いてあげます。

共育(ともいく)コーナー



うれしいね たのしいね しあわせだね の巻

『ダメ!』『止めて!』『Oちゃん!』といった言葉は、きっと誰もが聞き覚えがあると思います。順応性の早い子どもたちはすぐに真似して、同じ言葉が飛び交うようになっていきます。でも、意識して大人が使わなくなると、子どもたちも使わなくなります。

昔、子どもたちに「友だちがやってみよう!」と思える言葉をいっぱい考えて、使ってみよう。きっと気持ちがふわふわって軽くなるから」と相談しました。すると、『“早く!”もよく言っちゃうよね。これも止めようよ!』という提案も出てきて、自分たちで立ち止まって考え、そして意欲を引き出す言葉に変えていこうとする姿が見られていきました。

また『“でも…”と“だって…”、もよく使いませんか?』…と、職員と自分達を振り返りました。保護者の皆さんも、一緒に取り組んでみませんか?。そして子ども達と一緒にコミュニケーション力をアップしていきましょう。『こんな言葉に変えてみたよ～』といった事がありましたら是非、教えてください。

以前、日南中学校通信に【私たちがこれから取り組んでいくことは…】と題して、“同じこと(もの)でも、捉え方によってその取り組みの過程はもちろん、成果や結果、気持ちまでも大きく変わってくることがあります”と記してありました。“ネガティブ”(マイナス思考、消極的、否定的)を“ポジティブ”(プラス思考、積極的、前向き)に変えることだと思います。

例えば、大好きなソフトクリームがこぼれてしまって“もう半分しかない”と思うのか、“良かった～まだ半分もあるよ!”と捉えるのか…全て自分次第なんですよね。そんな時の、気持ちを切り替える言葉の一つがまさに魔法の言葉“うれしいね たのしいね しあわせだね”なんですよ。